

杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

- | | | | |
|----|---------------------------------------|----|--|
| 1面 | 新時代のキャンパスに学生の息吹
渡邊卓学長インタビュー | 7面 | コロナとも戦ったスポーツ部
硬式野球部、男子バスケットボール部 |
| 2面 | リハビリテーション学科開設準備大詰め | 8面 | 運 圓リレーエッセイ (1)
歌人 宮柊こと三磨・井の頭界隈 河路由佳 特任教授
健康ひとくちメモ (28)
ずわったままでできる腰のストレッチ 門馬博 講師 |
| 3面 | 海外留学復活 | | 救急救命学科 中村さんと吉野さん 心肺停止の男性救助 |
| 4面 | 地域留学 日本各地の課題解決に挑戦 | | 医学部 西竹さん 日本循環器学会 Student Award 最優秀賞 |
| 5面 | インターンシップ派遣再開
完成から半年 学びを変えた医学部講義棟 A | | コロナに負けないで！学生に食の支援 |
| 6面 | VRで広がる医療人材の教育 | | |

新時代のキャンパスに学生の息吹

杏林大学にとって、2022年度は大きな節目の年となっています。4月以降、松田剛明新理事長と渡邊卓新学長のもとで、新しい設備を備えた教育施設などが多数つくられ、保健学部の新編も行われています。また、新型コロナウイルスによる制約が緩和されて、学生がキャンパスの外に飛び出し、のびのびと体験学習に取り組む姿も見られるようになりました。今号では、渡邊学長にこの半年間で目に映った学内の様子やこれからの展望を語ってもらうとともに、海外や地域に出て学ぶ学生の活躍ぶり、各学部の新しい取り組みなどを紹介します。



学長に聞く 就任から半年「大学のいまそしてこれから」



学長 渡邊 卓 (わたなべ たかし)
2001年杏林大学医学部教授・付属病院臨床検査部長、2014年医学部長・大学院医学研究科長、2022年4月学長就任
脳神経外科専門医、臨床検査専門医

多様な教育資源を活かして

10月中旬、杏林大学は大学基準協会による認証評価を受審しました。教育研究の質の担保を目的として、教育活動や課題への取り組み体制などを外部機関が審査するもので、国公私立全ての大学が7年に1回受審します。受審に際して、まず各大学

における特色ある取り組みや成果、課題などを洗い出し、それを大学自らの手で点検、評価するという作業が行われます。学長就任後、間もなくの受審となりましたが、私にとっては、本学の全体像を見直す良い機会になりました。

そのなかで私は、本学には多様な教育資源があることに気がきました。今後、それらを活かした独自の教育・研究活動を発展させる必要があります。

また、学生達も様々な社会活動に参加していて、学部を越えた交流や地域社会との関わりをもち、豊かな人間性を育てていることがわかりました。学生誰もが社会活動に参加できる環境をさらに広げたいと考えております。

杏林の底力を実感

本学の今後のあり方を考えるためにも教員の教育・研究活動の現状を知っておく必要があると考え、5月

から7月にかけて、今まで比較的関わりの浅かった総合政策学部と外国語学部のすべての教員と個別にお話をする機会を設けました。

その結果、実に多彩な分野の研究者が学内におられる事に改めて気付きました。私は医学部に30年近くいましたが、学内にどのような先生方がおられ、どのような研究をされておられるのかを知る機会がほとんどありませんでしたので、今回、「杏林大学の持つ底力」に気付かされた訳です。

本学の創設者 松田進勇先生は、医学部、保健学部を開設したのち、大学として発展してゆくためには、自然科学系のみならず、人文・社会科学系の学問も同時に必要であるという信念に基づき、社会科学部(現 総合政策学部)と外国語学部を開設されました。進勇先生のお考えの通り、保健・医療系と人文・社会科学系の資源を融合させた

教育・研究活動が発展すれば、それは、杏林ならではの強みにもなっていくと思います。こうした本学の強みを知り、それを教育・研究に活かすことは、これからのビジョンを考えるうえでとても大切になってきます。

学生・卒業生らとつくる杏林の歴史

学生には、学業や多様な経験を通して、今後さらに不確実性が高まると予想される現代社会において遭遇し得るさまざまな課題に冷静に対応できる能力を身につけてもらいたいと考えています。もちろん、外国語運用能力やデータ解析能力の修得は、現代社会を生き抜くための必須事項となります。そのような能力を備えた卒業生が社会の一員となることで、杏林大学の社会的信頼も高まります。杏林大学の歴史を学生、教職員、そして卒業生も一丸となって、作っていきたいと思っています。

言語聴覚療法学専攻 を加えた リハビリテーション学科 開設準備大詰め

保健学部再編の肝は「言語聴覚療法学」

新学部は8学科5専攻

2023年4月、杏林大学保健学部はこれまでの9学科2専攻の学部構成を再編成し、理学療法学と作業療法学に、言語聴覚療法学を加えた「リハビリテーション学科」を新たに設置して8学科5専攻からなる学部として新たなスタートを切ります。

新しいリハビリテーション学科は、理学療法学（定員65名）、作業療法学（定員50名）、言語聴覚療法学（定員25名）の3つの専攻分野で学生を募集します。今回の学部再編は、近年のリハビリテーションに対する社会的なニーズの高まりに応えたもので、保健学部では初めてとなる言語聴覚療法学専攻の学生を受け入れるための準備を急ピッチで進めています。

付属病院のある養成コースは東京で初

言語聴覚療法学専攻は、言語聴覚士の国家資格の取得を目的としています。学生は4年間で臨床医学や心理学、言語学などの基礎分野に加えて、言語聴覚障害や発声発語・嚥下障害、臨床実習などの専門分野を履修します。東京都内で言語聴覚療法学を学べる大学は、杏林大学は3校目ですが、臨床実習などで利便性の高い医学部付属病院が併設された都内の大学としては杏林大学が初めてです。

杏林大学に言語聴覚療法学のコースができることは、言語聴覚士の仕事に興味のある学生や医療・福祉の関係機関の間で大きな注目点となっています。

2023年4月学科構成

保健学部
(8学科5専攻)

- 救急救命学科
- 診療放射線技術学科
- 臨床検査技術学科
- 臨床工学科
- 看護学科 [看護学専攻、看護養護教育学専攻]
- リハビリテーション学科 [理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻]**
- 健康福祉学科
- 臨床心理学科

理学療法学専攻

運動機能回復の専門家を育成

立ち上がる、起き上がる、歩くなど基本となる動作のリハビリを極める



作業療法学専攻

生きがい支援の専門家を育成

食事、洗顔、料理、字を書くなど生活に必要な動作のリハビリを極める



言語聴覚療法学専攻

言葉によるコミュニケーション支援の専門家を育成

話す、聞く、食べるなどのリハビリを極める



言語聴覚士は日本社会に必要な将来性ある職業

2010年に公開された映画「英国王のスピーチ」は、9月に亡くなったエリザベス女王の父 ジョージ6世が言語聴覚士の訓練で吃音を乗り越えた実話が基になっています。言語聴覚の訓練は古代ローマの時代からあったと言われ、その後ヨーロッパやアメリカで発達しました。日本では1999年から国家試験の制度が始まり、現在38,200人の言語聴覚士が登録されていますが、その数は、アメリカと比べ人口比率で40%に満たないのが現状です。このため、全国の医療・福祉の現場で必要人数を大幅に下回っており、言語聴覚士の就職率は100%、求人は学生数の20～30倍とも言われます。近年は高齢化に伴う飲食や嚥下の障害、それに声を使って働く人の発声障害に対する治療やリハビリを行うケースが増えているということです。アメリカの言語聴覚士で、ケンタッキー大学の准教授と杏林大学医学部の非常勤講師も務める石川恵子さんに聞きました。

<杏林大学医学部 石川恵子非常勤講師インタビュー> あなたの声を取り戻します！

もともと歌手志望だったそうですね？

はい。歌い手になりたくて米国に留学したのですが、声が出なくなって耳鼻科で手術をして、言語聴覚士のリハビリを受けました。その時、こういう仕事があることを知りました。そして、歌手や俳優をめざす人などが声の問題で仕事ができなくなった時に、再びステージに戻るお手伝いをしたいと思ったのが言語聴覚士になるきっかけでした。

どんな時にやりがいを感じますか？

人が声をなくすというのは自分の顔が変わるくらいショックなことだと思います。特に声を職業にしている

人なら仕事がなくなってしまう。これからどうやって生活していけばいいのだろうと非常に不安な気持ちになります。

言語聴覚士はいろいろな技術やプログラムを患者さんに紹介し、その人に合うものを選び、使えるように指導します。言語聴覚士のリハビリは、薬でも手術でも治らない人を助けることができますので、自分にしかできないことで患者さんがよくなった時、こんなに嬉しいことはないと感じます。



ワンランク上の杏林大学 言語聴覚コース

杏林大学の言語聴覚療法学専攻の最大の強みは、総合的な付属病院があることです。学生は効果的な臨床実習を経験でき、多様な症例を手掛けた医師による講義も受講できます。

そして、看護学科や臨床心理学科など保健学部の他の学科との交流学習や同じリハビリテーション学科の理学療法学や作業療法学にも触れながら言語聴覚の学びを深

めることができます。また、吉祥寺に近い広々とした新しい井の頭キャンパスで学べることも学生にとっては大きな魅力です。

こうしたメリットを生かして有能な言語聴覚士を多数育てて社会に送り出すことが、杏林大学の社会貢献にも繋がると学園の関係者は考えています。言語聴覚療法学専攻 開設準備室長の石毛美代子教授に準備状況などを聞きました。



杏林大学病院のリハビリ 患者さんの体験談

現在、杏林大学医学部付属病院には7人の言語聴覚士が勤務し、医師の診断をもとに日々治療やリハビリを行っています。杏林大学病院の言語聴覚士からリハビリを受けた患者さんの体験談を紹介いたします。

■声帯が閉じて声が出なくなった歌手（30代・女性）

どこの病院でも良くならず、不安になっていた時、杏林の言語聴覚士さんの指導を受けて目からウロコの体験をしました。例えば「喉の力を抜く」とはどういうことなのか、声を出すにはどの筋肉を使うのかがわかるようになりました。自分の身体感覚みたいなのを把握できるようになり不安が解消されました。将来また症状が出たとしても自分でコントロールできる自信ができました。

■喉の腫瘍で痛みと共に読経の発声が困難になった僧侶（50代・男性）

歌って下さい、あくびをして下さい、ため息をついて下さい、などと言われ、変なことをするものかと思ったのですが、数か月で痛みが和らぎ、声が出るようになりました。投薬も手術もせず、リハビリという自分が本来持っている自分の力だけで症状を直すことができるんだと知り驚きました。

<言語聴覚療法学専攻 開設準備室 石毛美代子教授インタビュー> 求む！「聞く力」のある学生

開設準備はどのような段階ですか？

総合型入試（AO入試）の選抜試験を終え、11月の学校推薦型の試験、来年2月の一般試験の問題作成など入試選抜



に関わる仕事をしています。ほかに検査機器や実習室の整備、付属病院での見学実習の段取りなどに追われています。

受験生の反応をどう感じていますか？

付属病院のある大学にできるということ、キャンパスが都心に近く、吉祥寺という若者に人気のエリアにあることで、学生や保護者から高い関心を集めていると感じます。

今年のオープンキャンパスでは、言語聴覚療法の模擬授業を行ったところ、高校3年生を含め120人が参加してくれました。「杏林大学を受験するつもりです」と話してくれた高校生も少なくありませんでした。皆さん、井の頭キャンパスの校舎のキレイさにも魅力を感じている様子でした。

どんな学生に受験してほしいですか？

言語聴覚士に向いているのは「聞く力」を持った人です。相手の話を理解する力はもちろん、声や発音の特徴などを聞き分ける力のある人が有利です。また、声や言葉がスムーズに出ない人に対して、その状況や気持ちを理解し、推察し、それに合わせて働きかけることも必要です。そういう「総合的な聞く力」を持った人に受験し、入学してほしいと思っています。

コロナ禍越えて海外留学が復活

本学では、外国語学部、総合政策学部、保健学部、医学部のすべての学部の学生が世界のさまざまな国・地域で学ぶ留学や研修を支援しています。海外での経験は、語学力や専門知識の習得に加え、自らの力で困難を乗り越える貴重な体験ができるからです。新型コロナウイルス感染症の流行により、留学制度は2年間、学生が現地に行くことなく、オンラインの形で行われていましたが、今年はようやく現地で学ぶ機会が復活しました。外国語学部と総合政策学部で現在留学中の学生とすでに留学を終えた学生は合わせて75人。留学先はイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダ、ベルギー、マレーシア、韓国、台湾、タイ、香港など多数の国や地域に及びます。留学を終えた学生の声などを紹介します。



イギリスで「百聞は一見に如かず」を体験

チチェスターカレッジ留学 やすたにかお
外国語学部英語学科3年 安谷佳央



入学時から行きたかった留学。イギリスでの4か月はあっという間の夢のような時間でした。4月から8月まで、チチェスターカレッジの英語学習コースで学びました。英語が好きで以前からYouTubeやPodcast、ラジオで英語番組をよく聴いていましたが、留学して英語を話し、わかり合える楽しさや新しい単語や言い方を学べた時の嬉しい気持ちを日々感じる事ができました。まさに「百聞は一見に如かず」の体験でした。

授業中の発言や自分の意見を伝えることはとても重要でした。いざ自分が発言する場面になると、思うようにいかず、もどかしさや悔しさも感じましたが、自由に自分の意見を話すクラスメイトに励まされながら、私も自分の殻を破って発言できるようになりました。わからなければ聞く、多様な意見を認め合う、互いに教え合うなど、授業を皆でつくっていくのも新鮮でした。

授業でスペイン人の留学生とペアを組んでワークやプレゼンテーションを行ったり、留学生同志交流を深めるなかで、自分とは異なる考え方やものの見方に触れることができました。それは、自国の文化や歴史についての理解、自分の考えを相手に伝える姿勢、また家族のイベントを大切に考える考え、新型コロナに対する意識など多岐にわたりました。

この留学を経て、次はアメリカ英語にも触れたい、都市と大自然が共存するカナダにも行きたい、もっといろいろな国に行ってみたいと思うようになりました。様々な経験ができたこの留学が無駄にならないように自分の未来を考えていきたいと思っています。

留学ひと言体験談 (留学者中間アンケートより抜粋)

- 途中でレベルの高いクラスに変わって学習内容が難しくなりましたが、やりがいがあります。クラスにはスペイン、フランス、中国などからの留学生が在籍。各々の意見や考えなど多様性を肌で感じる日々です
- 放課後は友人とジムに行くなど充実した時間を過ごしています。休日は街を散策したり、ロンドンやブライトンを訪れたりイギリスの街や文化を堪能しています
- 街に出てマーケットをテーマにした実践的な授業は興味深いものでした
- リバプールで好きなサッカーチームのスタジアムツアーに参加しました。選手専用の通路やロッカールームを見学するなど、非常に貴重な体験ができました
- 一週間の休みを利用してタスマニアに行きました。飛行機の予約など手続きに苦戦しましたが、英語が前よりも理解できるようになったことを実感しました



2022年度 海外留学実施状況

地域・学校名	期間	学部	人数
イギリス チェスターカレッジ	2022年4月～7・8月	外国語学部	9
	2022年9月～2023年2月		
イギリス オックスフォードプログラム	2022年9月～12月	総合政策学部	1
アメリカ カリフォルニア大学アーバイン校	2022年9月～2023年3月	外国語学部 総合政策学部	11
アメリカ オレゴン州立大学	2022年9月～2023年3月	総合政策学部	1
アメリカ エンボリア州立大学	2022年8月～12月	外国語学部	7
	2022年8月～2023年5月		
カナダ トロント大学	2022年9月～2023年2月	外国語学部	1
オーストラリア ウーロンゴン大学	2022年4月～12月	外国語学部	5
オーストラリア ディーキン大学	2022年8月～2023年2月	外国語学部	9
	2022年8月～2023年6月		
オーストラリア アデレード大学	2022年8月～2023年2月	外国語学部	17
		総合政策学部	
オーストラリア ニューカッスル大学	2022年10月～2023年3月	外国語学部 総合政策学部	2
ベルギー HELMo カレッジ	2022年9月～2023年1月	総合政策学部	1
中国 上海外国語大学	2022年2月～2023年1月	外国語学部	1
中国 香港中文大学	2022年8月～2023年5月	外国語学部	1
台湾 国立政治大学	2022年2月～2023年1月 (9月から現地留学)	外国語学部	1
韓国 韓瑞大	2022年9月～2023年6月	外国語学部	1
タイ チェンマイラチャバット大学	2022年8月～12月	外国語学部	2
タイ メーファールアン大学	2022年8月～12月	総合政策学部	1
マレーシア ニライ大学	2022年9月～12月	外国語学部	4

合計75人

【オンラインによる海外研修・留学】

2022年2月から2023年1月の間で実施しており、外国語学部の学生8人がアメリカポートランド州立大学、中国北京言語大学・北京第二外国語学院・北京外国語大学・上海外国語大学・大連外国語大学の授業を受けています。



卒業生3人が中国の大学の修士課程に進学

2021年に外国語学部中国語学科を卒業した佐藤莉莉さん、サトー綾香さん、龔家佑さんが、日本の文科省の選抜を経て中国政府の奨学金を取得し、9月より中国の大学の修士課程に進学しました。佐藤莉莉さんは天津大学で異文化コミュニケーションを、サトー綾香さんは中山大學で日本語教育を、龔家佑さんは華東師範大学でジェンダーをそれぞれ研究します。佐藤さんに話を伺いました。

起業家への夢を引き寄せる中国留学に 佐藤莉莉 (2021年卒業)

今回幸いにも中国政府奨学金を受けて天津大学で学べることになり、とても嬉しく思っています。ここまできたら最後までしっかり勉強し、結果を出したいと思っています。大学では、卒論執筆で芽生えた異文化理解や多文化共生への興味関心を追究するため教育学と多国間での異文化衝突の原因や問題点を学びます。将来は、中国を拠点に、フェアトレード商品を作り、低賃金労働などを行っている人々にしっかりと報酬を配れるような会社を作りたいと思っています。

“地域留学”で

日本各地の課題解決に挑戦

総合政策学部で新たに始まった「CBL※（地域留学）」は、地域に滞在し、課題を発見し、解決を目指すカリキュラムです。各自治体での新型コロナウイルス感染症の予防対策などが整ってきたことを背景に、今年度は本学部の教育方針に理解をいただいた7つの地域に学生が派遣されました。

学生達はまず、前期の授業で各地域の自治体・NPO法人の職員などから地域の特徴、課題について説明を受け、グループワークを行ったり、課題の発見や解決へのアプローチ、心構えを学んだりしました。その後、夏期休暇の時期に2週間から4週間、希望するエリアに滞在し、住民や自治体関係者と交流することで、地域が抱える課題の発見に努め、学生の視点で改善に向けた提案などを行いました。外国語学部生も履修できるこのカリキュラムには、28人の学生（総合政策学部19人、外国語学部9人）が参加し、新潟県から佐賀県まで7つの地域に分かれて活動を行いました。（※CBL：Community Based Learningの略）



地域	受け入れ先（上段）、課題（下段）
新潟県南魚沼市	公益社団法人つばめいと・塩沢信用組合 70周年を迎える塩沢信用組合の課題解決・CM制作
新潟県三条市	三条未来づくり舎日吉舎・三条市地域おこし協力隊 モノづくりを知り、伝える
宮城県石巻市	石巻市役所復興企画部・一般社団法人フィッシャーマンジャパン 三陸（石巻）における水産業の復興
宮城県東松島市	東松島市役所復興政策部 東松島における地域資源の情報発信
長野県塩尻市	塩尻商工会議所・NPO法人 MEGURU 塩尻市の観光課題の発見と解決
愛知県豊橋市	一般社団法人二川リンケージ 二川宿における空き家問題の解決
佐賀県上峰町	合同会社つばきまちづくりプロジェクト・上峰町 ふるさと納税上位自治体によるイオン撤退後のまちの再開発

かみみね

佐賀県上峰町 固有の歴史と自然を売りに町の活性化を!

佐賀県上峰町は人口およそ1万人。佐賀県東部に位置する町です。2019年にイオン上峰町店が閉店した後、跡地一帯を地域活性化のために再開発する事業に取り組んでいます。この町を留学先に選んだ8人の学生は、2グループで2週間ずつ活動しました。



はじめに上峰町を知るため、揃いのユニフォームを着て自転車で町内を視察

ながさわま お

地域の人と交流しながら課題への理解を深める 総合政策学部2年 長澤真桜

私は後半グループとして、8月下旬から地域留学を行いました。町長から特別職員に任命され、自転車で町を回ったり、担当スタッフや副町長にあちこち案内してもらったりして、地域の取り組みや生活の様子を把握していきました。また、名所である鎮西山周辺の清掃を地域の人と一緒にやるなど、楽しく交流しながら町を理解していきました。

町の魅力の発信力アップを目指した提案

町の活性化のために観光客の増加が課題ということで、町の魅力が伝わるブランディングが大切だと考えました。そこで例えば、町が観光資源としている平安時代の武将や椿を取り入れた看板、郵便ポスト、ブランド米の袋のデザインなどを提案しました。

また、県全体で健康増進のためのウォーキングを推進しているということで、町のシンボルである鎮西山の登山道を整備することで、観光地化と町民の外出を促す効果を狙った提案などを行いました。

自分達の手で地域を活性化させる魅力を実感

初めての場所に2週間滞在し、温かく受け入れてくれた地域の方達と課題を議論し、解決策を考案したことは貴重な経験となりました。これまで自分が暮らす自治体のことを意識していませんでしたが、地域留学によって、自分が地域のために何ができるのか意識するようになりました。また第三者だからこそその気づきやアイデアがあることが分かり、将来の自分の可能性が広がったように感じています。

宮城県東松島市 地域の観光資源を東京から発信を!

宮城県中部、仙台湾沿岸に位置する東松島市は人口およそ4万人。漁業が盛んでブルーインパルスが所属する航空自衛隊基地などがあります。本学とは包括連携協定を締結しています。この町で5人の学生が2週間活動を行いました。



特産の牡蠣の水揚げを体験

総合政策学部2年 鈴木なつみ

見て触れて新たな切り口で魅力を見つける

若い世代の視点で観光資源を見つけ、PR方法を提案していくという活動に興味を持ち、東松島市を選びました。そもそも若者にどれくらいの認知度がある地域なのか、SNSでアンケート調査を行ったところ、回答者約130人のうち、86%が認識していませんでした。それを踏まえ、現地で住民や民宿の運営者など様々な人に地域の魅力をヒアリングしたり、牡蠣の水揚げ漁など漁業体験をしたりして、東松島市の産業や豊かな水産資源について理解し、課題の認識を深めていきました。

東京で地域の魅力に触れる提案

発信できる観光資源としては、きれいな海や空、美味しい海産物などが挙げられました。こうした魅力をまずは市役所など地元の人が積極的にSNSで発信することを提案しました。さらに、都心の人が東松島の魅力を知り訪れるきっかけになるよう、東京でのイベント開催を提案しました。この提案は「杏林大学クラフトマーケット」として、今年11月に杏林大学井の頭キャンパスで実施するイベントに発展することになりました。

震災を体験した地元の人々の想いに触れて

東松島市は東日本大震災の影響を大きく受けましたが、地元の人々が安心して戻れる海にしたいと活動している海苔養殖者の方などの姿がとても印象的でした。現地に滞在したからこそ得ることのできた貴重な経験でした。また、地域の人達と課題を検討し、グループで提案をまとめられたことで、達成感を得ることができました。



学生たちの現地派遣を振り返って 総合政策学部 CBL（地域留学）総括担当者/教授 木暮 健太郎

学生たちは1か月にわたり、地方都市に滞在しながら、地域の課題発見、課題解決に取り組んできました。そこで得た学びは、非常に大きなものだったと感じています。慣れない環境に戸惑いながら、仲間にも助けられ、多くの困難を乗り越えてきました。留学前と比べて「たくましくなって帰ってきた」、それが私の率直な感想です。今後も多くの学生たちに地域留学を経験してもらいたいと思っています。

インターンシップ派遣再開

総合政策学部と外国語学部では、企業や団体の協力を得て単位認定を伴うインターンシップ制度を実施しています。これはキャンパスでの授業と夏休み中に企業や団体に出向いて行う派遣体験を組み合わせた通年授業として行っているものです。これによって、机上で行う職業学習を実体験によって裏付けることができ、幅広い教養や基本的なビジネススキル、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うと共に高い教育効果も期待できると考えられています。コロナ禍で制限されていたインターンシップ派遣ですが、この夏は48人の学生が様々な経験を積んできました。長野県志賀高原の観光ホテルと羽村市役所に派遣された学生の報告です。

ホテル経営を学びデザートメニューや宿泊プランを提案



ホテルのフロント業務を体験



大自然に囲まれた志賀高原オリンピックホテル

外国語学部観光交流文化学科3年生の興石わかかなさん、志岐真直さん、工藤百絵さん、長谷川愛美さん、小野藍香さん、末村裕汰さんの6人は、7月31日から約1か月間、長野県の志賀高原オリンピックホテルでインターンシップに参加しました。

このインターンシップは、接客やサービスだけでなく、ホテル経営を学ぶことが最大の特徴です。学生たちは宿泊客の対応や客室業務など様々な業務を体験するとともに、特産の果物を使ったデザートメニューや大自然に包まれる高原リゾートならではの宿泊プランを企画・

提案し、ホテル側からは営業効果や実現性などの点から講評を受けました。

インターンシップを振り返って学生達からは「企画を実現するために何が 필요한のかを真剣に検討していただき、経営者の視点も学ぶことができました」「客室清掃や調理関係のマニュアル作成に関わったことで、規律も大切な反面、お客様のリクエストに臨機応変に応える重要性も痛感しました」「ホテル業界に就職しなくても、ホテル経営の苦労や工夫を身をもって知ったことは今後必ず生きてくると思います」といった感想が聞かれました。

動物舎の再建目指してクラウドファンディングを立ち上げ!



クジャク舎を掃除する小林さん

総合政策学部の小林陸さんは、8月15日から1週間、羽村市役所土木課でインターンシップを行いました。本学と羽村市は平成22年に連携協定を締結。インターンシップもその一環として本学の学生を受け入れてくれています。

小林さんに与えられた課題は、羽村市動物公園のクジャク舎を建て替える資金を調達するクラウドファンディングのウェブサイトを作ることでした。小林さんは、この課題をこなすため、まずクラウドファンディングの仕組みやマーケティングの手法、ウェブサイトの制作について学んだり、クジャクの生態などを

知るためクジャク舎の清掃活動を行ったりもしました。そして最後には、「クジャクが思いっきり羽を広げたくなる住まいを作りたい～自然体で過ごせるアニマルファーストの動物公園」と名付けたファンディングをウェブサイト上で展開しました。このファンドは目標金額100万円で、今年いっぱい寄付を受け付けています。

小林さんは、「インターンシップでは初めて経験することばかりでしたが、サイト作成に自分の考えが反映されたり、多くの職員の方と関わったりして、とても充実した1週間でした。仕事のやりがいや楽しさだけでなく、物事の見方や考え方なども学びました。私の配属先の井上係長から『常に“パッション”を持って行動することが大事』という言葉がかけられたのが印象的でした。何より積極的に行動することを学べたのは、今後の人生にとって大きな力になります」と話しました。

完成から半年 学びを変えた医学部講義棟 A

美しさと機能が快適なキャンパスライフを演出

ロマネスク調のアーチを連ねた回廊や遠くのゴールを目指すように伸びる階段、そして開放感あふれるウッドテラスやプロムナード。今年3月に完成した医学部講義棟Aの美しい佇まいは、ヒューマニズムを大切にする本学医学教育の理念を表しているように見えます。その恵まれた校舎の完成から半年あまり。学生たちがここでどのように過ごし、学んでいるのかを探りました。

10月中旬、3階のオープンスペースで3年生の授業の一環として、ワールドカフェ「とにかく話そう トーク!トーク!! トーク!!!」が行われました。ワールドカフェは少人数のグループで行う対話コミュニケーションの手法の一つです。授業では学生が教員を囲んで、医学部の学びや将来の医師像について気づきを得ようと対話を重ねました。

新校舎には他にもラーニング・コモンズなどのスペースが多数配置され、可動式の机と白板を活用しながら多様な形の学習ができるようになり、学生同士が語り合い、勉強を教え合う場面も格段に増えました。また、十分な席が用意された自習室と整備されたネット環境は学習の意欲と効率を大幅に向上させました。

7月に行われたオープンキャンパスでは、オープンスペースで学生の弦楽ミニコンサートや学生生活を紹介する展示等も行われました。高校生からは、「こんなステキな校舎で学べるなんて羨ましい」という声が聞かれました。



ワールドカフェ方式で行われた授業

新校舎で学ぶ学生の声

- 今までなかった自習室があるのは嬉しいです。日常的に利用しています
- どの教室も明るく、きれいでやる気が出ます
- ラーニング・コモンズはみんなで情報交換しながら一緒に勉強できるのがいいです
- 自習室やラーニング・コモンズ、ラーニング・ラウンジなど座席数が多いことが嬉しいです
- 試験前に自習室をよく使います。ブース型なので集中して勉強できるのが気に入っています
- 部活のミーティングで広い作業スペースが必要な時、ラーニング・ラウンジの大机がとても便利です
- ラーニング・ラウンジは大きな窓から外の緑が見えてとても開放的。ボックス席もあり、用途によって座席を選べるのもいいです

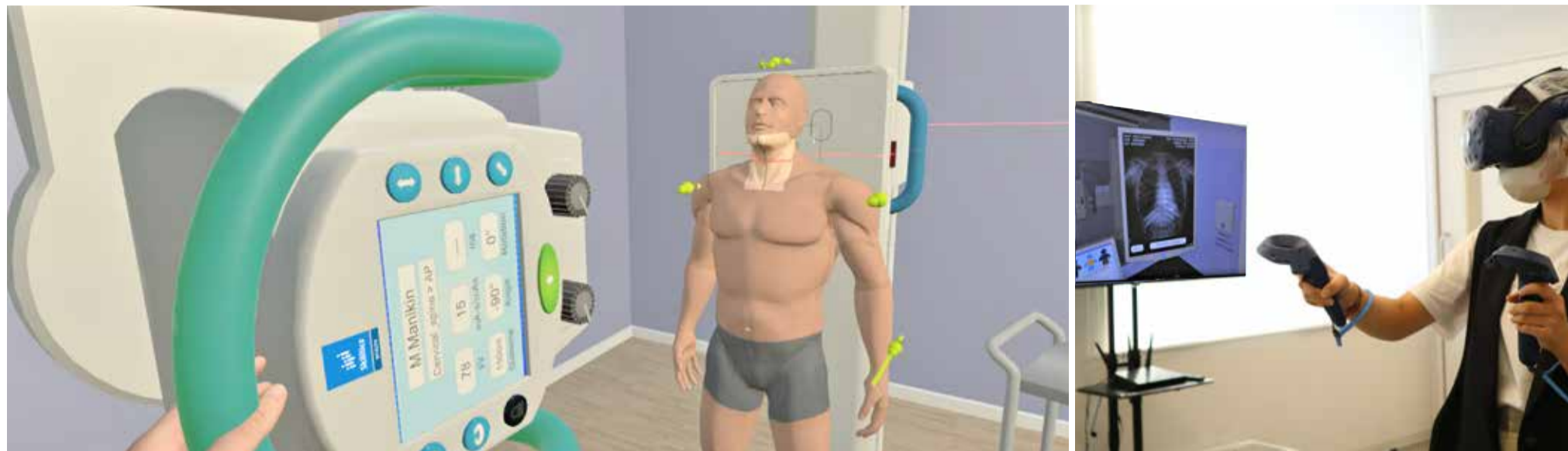


バーチャルリアリティ

VR(仮想現実)で広がる医療人材の教育

VR=Virtual Reality(仮想現実)は、eスポーツやエンターテインメントの分野をはじめとして、近年急速な広がりを見せています。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、人との接触が制約されたことも相まって、ここ数年、医療や教育の分野でもVRの技術を活用する動きが急速に進んでいます。

本学は、2021年3月に文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択されたことを機に、新型コロナウイルスをはじめとする感染症教育の基盤を構築するため、医師や看護師などを対象とする学生を対象にVRを取り入れた教育を開始しています。また、保健学部診療放射線技術学科では、病院実習を行う3年生の事前教育に今年度からVRを取り入れています。



医師・看護師
養成教育

緊急出産に対応するチーム医療を学ぶ

医学部産科婦人科学教室 教授/付属病院 総合周産期母子医療センター長 谷垣 伸治

オリジナルのVR教材による実習

本学医学部付属病院には、都内6か所のみ指定されている母体救命対応総合周産期母子医療センター(スーパー周産期センター)があり、緊急に母児の救命処置が必要となる出産に対応しています。「超緊急帝王切開」は帝王切開のなかでも最も緊急度が高く、1分1秒を争うため、事前に臨床実習の予定を組んだり、学生に教育しながら処置や手術を進めたりすることができません。そこでオリジナルのVR教材を制作し、医学部生の臨床実習に取り入れています。緊急性の高いお産は、小児科医、麻酔科医、助産師、看護師など多職種間の連携が欠かせません。保健学部で助産師課程を履修している学生もVRを体験することで、チーム医療のあり方を学んでいます。

活用の可能性広がる教育ツール

新型コロナウイルス感染症禍の問題を回避するためにも、VRは極めて有用な教育ツールだと感じています。今後はさらに研修医や看護師などの医療スタッフを対象としたチームトレーニングで活用することを考えています。

事例の少ない緊急性・難度の高い出産には、多職種間での事前トレーニングが欠かせないため、VRの活用範囲を広げていきたいと思っています。



VRで学んだ学生のコメント

- 手術室にいるかのような臨場感をもって緊急性の高い帝王切開を体験できました(医学部学生)
- チーム医療の動きを学ぶことができました(医学部学生)
- 感染対策で病院実習が対面でできないこともあるのでVR実習がもっと普及すると嬉しいです(医学部学生)
- 患者さんから見た出産現場の様子をリアルに体感でき、助産師の役割の一つを認識できました(保健学部看護学科学生)

VRを活用した医療人材の育成

医学部 教授・感染症医療人材養成室長
大西 宏明

VRを活用した教育について、指導教員や受講学生のフィードバックから一定の効果が認められています。同時に、車酔いのような“VR酔い”が生じるため、ゴーグルの装着時間が限られるほか、VRだからこそ効果の見込める題材を選別して制作するには負担も伴うため、これを続けていくことの難しさも課題としてあります。

今後、教員と有志学生によるチームを編成し、VR教材の活用方法を検討していく予定です。デジタルネイティブ世代といわれる学生達がVR教材を自由に活用し、主体的に学習できる仕組みを構築できるよう、引き続き努めていきます。

放射線技師
養成教育

特徴活かし技術の修得と定着をめざす

保健学部診療放射線技術学科 助教/VR実習指導担当 只野 喜一

コロナ禍の撮影技術修得のために導入

診療放射線技師の業務では患者の体に触れながら撮影位置を合わせるポジショニングという技術が非常に重要です。これまでの実習では学生同士や人体模型を使用して練習してきましたが、新型コロナウイルス感染症禍においては密と接触を避けて実習をする必要がありました。この点をクリアするために試行的にX線撮影VRシミュレータを導入しました。

VRシミュレータでは関節や骨を触る感覚は得られないため、現実世界での実習を完全に置き換えることはできません。しかし、VRならではの人体を透過させて骨を見るなどの機能はその撮影法を理解するのにとても有用でした。また、出力される画像はそのポジショニングや撮影条件を反映するため、学生はより良い写真を撮るためにはどうしたらよいかを考え、試行錯誤することができます。誤りを修正してから再撮影するのもVRでは簡単です。

VRはゲームに広く用いられている技術ということもあり、とっつきやすいのもメリットですので、今後は1年次の早期学習での活用も検討しています。



VRで学んだ学生のコメント

- 繰り返しX線撮影を試せるので、技術の修得に効果がありそうです
- 放射線の管理や装置の準備時間が減り、十分な練習時間が確保できます
- VR上では、撮影部位の骨が透けて映し出されるため、解剖学の知識をおさらいしながら撮影部位を確認できるのがよいと思います

コロナとも戦ったスポーツ部

本学の部活動・サークルは、体育会系と文化系あわせて 67 団体あります。その活動を通じて、学生たちは授業では学べない社会性や人間力を高めながら学生生活を謳歌しています。新型コロナウイルス感染症は各団体の活動にも深刻な打撃を与えましたが、今年度は部員たちの創意工夫や努力によって徐々に本来の活動を取り戻しつつあります。この夏、待望の屋内練習場が完成した強化指定クラブの硬式野球部と今年度体制を新たにスタートした準強化指定クラブの男子バスケットボール部の様子をお伝えします。



硬式野球部 目標は大学野球選手権・明治神宮野球大会出場

杏林大学は東京新大学野球連盟 1 部に所属しています。連盟には他に、共栄大学、創価大学、東京国際大学、流通経済大学、駿河台大学と強豪が名を連ね、毎年、各校とも明治神宮野球大会などへの出場を目指してしのぎを削ります。部員は保健学部健康福祉学科と総合政策学部で籍を置く 95 人で、毎年全国から有望な選手が集まっていますが、2014 年にリーグ 2 位となり、明治神宮野球大会の予選の関東地区大学野球選手権に出場して以降 A クラス (1~3 位) 入りはできていません。今年度は春リーグ 5 位、秋リーグ 6 位に終わり、10 月末に行われた入れ替え戦では古豪東京学芸大学に惜敗し、12 年ぶりに 2 部降格という厳しい結果となりました。

一方、硬式野球部にはこの 8 月、明るいニュースがありました。それは八王子キャンパスに待望の屋内練習場ができたことです。練習場は神宮球場の内野の明るさやマウンドの傾斜を合わせるなど各所に工夫が凝らされています。来季は 1 部への復帰と関東地区大学野球選手権出場を目指すことになります。



おぎもと ゆういち
荻本 有一 総監督
大分県立津久見高等学校、日本大学卒業。1967 年第 39 回選抜高等学校野球大会、1971 年第 2 回明治神宮大会の優勝メンバー。2003 年杏林大学硬式野球部監督就任。2021 年より総監督

屋内練習場に感謝！来季はやります！

コロナ禍、部では練習・移動・食事など様々な場面で感染対策を行っています。部員 95 人の大所帯のため、選手たちの体調管理には気を遣っています。また、感染者が出て試合が中止や延期になることを想定して、対外試合を多めに組むとか、欠員が出て試合が成り立つように登録者を多くするなどの工夫もしました。屋内練習場を新設していただいたことには心から感謝しています。今季を振り返ると、選手たちは大事な場面で気持ちの弱さが出てしまうことがありました。新しい練習場を活用して、技術や肉体面の強化だけでなく、一層練習を積んで自信をつけて精神面でも強くなることを期待しています。来季こそ応援して下さる皆さまの期待に応えられるよう一同努力します。

また、私は人間として大事なことは、努力を惜しまないことと誠実であることだと思っています。学生たちには、野球に正面から取り組んだ経験を忘れず、社会に出て自信をもって正々堂々と生きることができるような人間に育つよう指導して行きたいと思っています。



待望の屋内練習場に部員から喜びの声

- 想像していたより広々しています。雨天時でも実践に近い練習ができるほか、夜も自主練習ができるようになり嬉しいです
- 雨で練習ができないまま試合に臨むと不安になりましたが、それも解消できそうです
- 人工芝なのでストレッチもやりやすいです。雨の日でも練習ができて嬉しいです。結果で恩返しできるように頑張ります！
- 主体的に練習に取り組む選手が増えたと思います。ボールが見えない夜間や天候不良でも練習ができ、少しずつチームのレベルアップにつながっていると感じます



男子バスケットボール部 創部 1 年目 4 部昇格果たす！

男子バスケットボール部は今年度、総合選抜 (AO 入試 スポーツ型) 入試で保健学部健康福祉学科に入学した 1 年生 15 人で新たなスタートを切りました。新規参入の本学チームは関東大学バスケットボールリーグ連盟 (KCBF) の 5 部に所属していますが、6 月にはリーグ新人戦の本戦に出場し、2 回戦まで駒を進めました。新人戦の本戦は 4 部 5 部の約 50 校中、4 校だけが進める狭き門でしたが、チームは初戦の芝浦工業大学に勝ったあと、横浜国立大学、武蔵大学、学習院大学にも勝ち、本戦出場を決めました。本戦での相手は格上の 3 部の玉川大学でしたが、相手の体力を削り、積極的にリバウンドを取る作戦で勝利。さすがに 2 回戦の相手は春の関東トーナメント王者の専修大学だったため敗れましたが、それでも 70 点を取ってチームの実力を存分にアピールしました。

10 月 27 日現在、KCBF のリーグ戦が行われている途中で、チームは 5 部の 1 次リーグを全勝で通過し、2 次トーナメントで優勝を目指して勝ち進んでおり、この時点で来年度の 4 部昇格が確定しています。



かねだ のぶお
金田 伸夫 監督
筑波大学卒業。実業団の東芝で活躍後、桐朋中学・高校に赴任。教鞭をとる傍ら全国大会ベスト 16 進出を果たす。その原動力となった「古武術バスケット」「ナンバ走り」は、当時のスポーツ界に大きな衝撃を与えた。今年度から監督就任。関東大学リーグの「台風の目」的存在になっている

バスケットで部員を自立した社会人に！

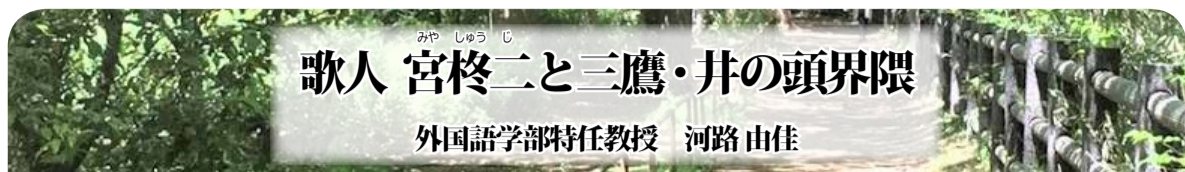
部の活動がスタートした矢先、コロナ感染者が出たため活動停止となり、4 月の関東大学トーナメントは出場を辞退しました。リーグ戦では 5 部リーグを全勝トップで通過し 2 次トーナメントに進んだので、一層気を引き締めて万全の態勢で試合に臨みます。創部 1 年目にしてチームはコロナとの戦いにも勝利して 4 部昇格を掴みました。

このチームを率いるにあたっての私の考えは、学生たちが卒業後に自立した人生を歩めるよう、バスケットを通じて教えたということです。それは、基本的なマナーやルールを守ったり、信頼関係を築ける円滑なコミュニケーション力を身につけたりすることだと思っています。選手には、「日本一」よりも社会での自立を伝えていきます。道を踏み外してもバスケットが上手からいだろう、勝てばいいだろう、という考えではいけません。社会での自立を目指す選手は必ず一生懸命なプレーをするようになります。杏林大学が「日本一」一生懸命プレーするチームになる日は近いと思っています。



リレー エッセイ(1)

今号からスタートする新コーナー“リレーエッセイ”では、毎回杏林大学の先生たちに日頃の授業では取り上げない話題や知識、見聞などを自由気ままに書き綴っていただきます。初回は、外国語学部の河路由佳特任教授による井の頭ゆかりの歌人 宮柊二のお話です。



歌人 宮柊二と三鷹・井の頭界限

外国語学部特任教授 河路由佳

杏林大学のある三鷹・井の頭界限は暮らしやすさで人気があります。新潟出身の歌人、宮柊二(1912～1986)は、20歳のときに上京、44歳で気に入った井の頭の地に家を建てて移り住み、74歳で亡くなるまで暮らしました。三鷹・井の頭界限をよく散歩したようです。

井の頭公園の朝の散歩の様子を詠んだ作品の一部を味わってみましょう。

逸民の一人とおもひ
人気無き鳥獣園に朝来て遊ぶ

晨朝に風は起りて
井之頭の深き木群の響みそめたり

まだ人のいない動物園をのんびりと見て歩く様子、立ち並ぶ木々が朝生まれたての風に揺られて爽やかな音を立てる様子が詠まれています。俗世間を離れて自由な生活を楽しむ「逸民」として、井の頭で過ごす日常が柊二にとって安らかで充実したものであったことが伝わります。

秘かなる平和のごとく井之頭
木の間の泉白く濁れみき
水の濁れた所に「秘かなる平和」を見出すのは、

凄惨な戦争体験の痛みを持ち続けた柊二ならではの感性かもしれませんが、井の頭公園が柊二の傷ついた心に平安をもたらしたことがわかります。

三鷹は作家の太宰治の暮らした街としても有名です。三鷹の禅林寺には、太宰治と森鷗外のお墓があり、太宰が入水した玉川上水も近くを流れています。柊二は、こうした場所にも足を伸ばし、彼らを偲んだようで、こんな作品があります。

しらしらと花持ちそめし竹煮草
太宰治入りし上水の径

あかあかと花満ちて咲く椿の下
森林太郎の墓立ちてをり

春の日を浴みつつ対ふ言葉なく
森鷗外の墓太宰治の墓

本名を書くようにとの鷗外の遺言に従って彼の墓には「森林太郎の墓」と書かれています。太宰の、尊敬する森鷗外の墓の傍に眠りたいという希望どおり、太宰のお墓は鷗外のお墓のそばにあります。柊二は二人を偲びつつ、静かに瞑目して手を合わせたことでしょう。



かわじ ゆか：専門は日本語学・日本語教育。現代歌人協会会員で歌人としても活動。著書に『日本語教育と戦争－「国際文化事業」の理想と変容』（新曜社）『河路由佳歌集』（砂子屋書房）、ドナルド・キーン氏との共著『ドナルド・キーン わたしの日本語修行』（白水社）など多数

救急救命学科 中村さんと吉野さん 心肺停止の男性救助



保健学部救急救命学科2年の中村 将さんと吉野那奈子さんが、心肺停止の男性の命を救ったとして、8月4日に東京消防庁消防総監より感謝状が贈られました。

救命活動は7月6日(水)の朝、通学途中の京王井の頭線の下北沢駅構内で行われました。男性が倒れて人だかりができていたことに気づいた中村さんは、居合わせた看護師と連携して心肺停止状態の40代の男性に心臓マッサージとAED

による電気ショックを行いました。同じく通学途中の吉野さんが、AEDの音に気づいて救命活動に加わり、到着した救急隊に男性を引き渡しました。男性は一命をとりとめ、その後順調に社会復帰を果たしました。

後日、中村さんと吉野さんら人命救助に携わった7人に消防総監感謝状が贈られました。

医学部 西竹さん 日本循環器学会 Student Award 最優秀賞



医学部6年生の西竹美緒さんが、9月3日に開催された第265回日本循環器学会関東甲信越地方会でStudent Award最優秀賞を受賞しました。

西竹さんの発表タイトルは「先天性門脈静脈短絡を合併した肺動脈性肺高血圧症の一例」で、先天性の異常血管のある肺高血圧症の治療について症例報告と考察をまとめました。

受賞にあたり西竹さんは、「検査結果

の見方、治療法の決定、患者さんの経過観察まで先生方からきめ細かく教えていただきました。とても勉強になりましたし、診療や手術の時間をぬって指導していただいた先生方への感謝の気持ちでいっぱいです」と話しました。

そして、「常に患者さんや患者さんを大切に思う人たちの立場で考え、そして笑顔絶やさない明るい医師になりたいです」と将来への抱負を語りました。

コロナに負けないで! 学生に食の支援

本学は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により経済的に困窮している学生に対し「食」に関する支援を実施しました。対象となったのは修学支援新制度を利用している保健学部、総合政策学部、外国語学部の学生で、そのうちの希望者62人に学生支援課より白米、カレー、中華丼、ラーメン、パン、みそ汁といったレトルト食品等が7月から8月にかけて配布されました。受け取った学生からは「食費に困っていたので助かりました」「バイトの収入も少ないのでありがたい」「経済的に助かっただけでなく、学生のことを気にかけてくれているのが感じられて嬉しかった」などの声が寄せられました。



届けられた食品例

編集を終えて.....

・今号はコロナ禍の苦しみを経て未来を切り開いていくエネルギーと新たな挑戦に目を向けた、まさに「新時代の息吹」を感じられる記事が目白押しです。大学の環境整備と再編による発展、そして様々な制約の中で蓄え準備してきたことをようやく発揮できる喜びをかみしめながら、一人ひとりの今後の活躍と成長への期待に胸が高鳴ります。(編集長)
・初めて大学新聞の編集に携わりました。「杏林大学の今って何だろう?」と考えた時、「あれはどうなった?」の視点も必要かと思ひ、このような紙面にしました。息を潜めていた学生たちがウィズコロナの気配に反応して動き始めた姿や、彼らのやる気を鼓舞する学園と教職員の温かい眼差しを感じ取っていただければ幸いです。大学の今を生き生きとお伝えし、読者の皆様がこの大学を身近に感じ、大好きになり、応援したくなる新聞を目指します。(広報室長)
・8面では新コーナー・リレーエッセイが始まりました。河路由佳先生のお話にキャンパス周辺を散歩してみたくなりました。1面で渡邊学長が話された、学生・卒業生・教職員とつくる杏林大学の歴史を新聞でも伝えてまいります。(酒)